NIE実践報告

1．タイトル　授業と社会をむすびつける新聞活用のあり方

2．学校名

長野県長野市立犀陵中学校

3．実践者名（代表者名）

吉澤孝志・清水敬祐

4．学年

3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会・総合的な学習の時間　１６５名

6．単元（本時の学習課題）名

政府の仕事と租税

7．目標(狙い)

新聞の記事を根拠にして、消費税の引き上げに「賛成」か「反対」の根拠を持ち、日本の税制度に関して理解を深めることができる。

8．評価の視点

用意した新聞から、ここまでに学習した「日本の税制度・社会保障制度・高齢化社会・日本の政治の現状、政府の対策など」に関して、新聞記事の切り抜きができたか。その記事を基に消費税の賛否について自分なりの考えが持てたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

月に１時間程度の各クラスの新聞の切り抜き作品（主に東日本大震災に関して）を総合的な学習の時間の中でとる。その上で３学年公民（１０５時間）中、本単元は８時間目

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1 国の歳入と歳出、国民一人あたりの借金額
2 日本の税の種類とその使い道
3 日本の社会保障制度と国民福祉「・社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生・少子高齢化」
4 日本の税制度と諸外国の税制度の比較
「・社会保障費における諸外国との比較・高齢化率の国際比較・高負担、高福祉」
5 消費税引き上げの問題について考える。
6 前時に各自が考えた消費税の引き上げに「賛成」か「反対」の根拠となる資料を探すため、日本の財政問題等に関する、新聞記事の切り抜きを行い、日本の財政問題等について理解を深める。
7 消費税引き上げの問題について、それぞれの考えを発表し合い、消費税を１０％に引き上げた方が良いか、引き上げない方がよいか考える。
8 日本の借金を増やさないための税制度を考え、日本の税制度についてまとめる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

身近な増税という課題に対して、実際に大震災で使われる税金、国債のふくらみなど、国の現状をもともとの切り抜きで知っている生徒たちは単に消費税が高くなることがいやだという単純な思考を超え、増税も必要だが、どう増税したらいいのかや、増税と同時にやった方がよい国の政策にまで考えをふくらませる生徒たちの姿が多く見られた。

12．成果と課題

新聞を用いたことにより、実際に世の中で起こっていることと教室内で学んでいることが結びついてきたことは大きな成果であった。同時に新聞を扱う際にそれぞれの新聞による考え方の違い、記事の一部を使うことによる事実の誤認など、リテラシーへの配慮についてさらに考えていく必要があった。